

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-265212
 (43)Date of publication of application : 07.10.1997

(51)Int.CI.

G03G 9/107
 G03G 9/08
 G03G 9/113
 G03G 15/08

(21)Application number : 08-072279
 (22)Date of filing : 27.03.1996

(71)Applicant : KONICA CORP
 (72)Inventor : ISHIKAWA MICHIAKI
 MATSUSHIMA ASAO
 YAMANOUCHI TAKAO
 KOUNO MASANORI

(54) FERRITE CORE FOR COATING CARRIER, COATING CARRIER FOR DEVELOPER, TWO-COMPONENT DEVELOPER AND IMAGE FORMING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a good image for a long term by producing such a ferrite core that the powder X-ray diffraction spectrum after sintering shows a main peak of a metal compd. in a specified range and the intensity of the highest peak in the data after sintering and the intensity of the main peak in a specified relation.

SOLUTION: The ferrite core for a coating carrier of a two-component developer is produced by using a source material of a metal compd. and a binder resin, pulverizing, granulating, and calcinating to produce a ferrite. The ferrite core after sintering has such powder X-ray diffraction spectrum that the main peak of the metal compd. as the source material is present in the range of 5° -- 220° 295° . In the X-ray diffraction spectrum after sintering, the intensity(2) (counts) of the highest peak and the intensity(3) (counts) of the main peak of the metal compd. as the source material satisfy the inequality of $100\% \geq (3)/(2) \times 100 \geq 0.1\%$.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.11.2001
 [Date of sending the examiner's decision of rejection]
 [Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
 [Date of final disposal for application]
 [Patent number] 3643997
 [Date of registration] 10.02.2005
 [Number of appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
 [Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-265212

(43)公開日 平成9年(1997)10月7日

(51)Int.Cl.*	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 3 G	9/107		G 0 3 G 9/10	3 2 1
	9/08		15/08	5 0 7 L
	9/113		9/08	
	15/08	5 0 7	9/10	3 5 1

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全9頁)

(21)出願番号 特願平8-72279

(22)出願日 平成8年(1996)3月27日

(71)出願人 000001270
 コニカ株式会社
 東京都新宿区西新宿1丁目28番2号

(72)発明者 石川 美知留
 東京都八王子市石川町2970番地コニカ株式
 会社内

(72)発明者 松島 朝夫
 東京都八王子市石川町2970番地コニカ株式
 会社内

(72)発明者 山之内 貴生
 東京都八王子市石川町2970番地コニカ株式
 会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 コーティングキャリア用フェライトコア、現像剤用コーティングキャリア、二成分現像剤及び画像形成方法

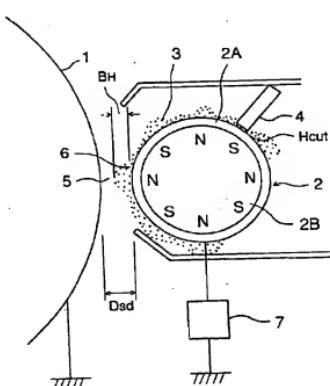
(57)【要約】

【課題】 画像の先後端濃度差が長期にわたって発生しない、又カブリやトナー飛散が発生しないキャリア用フェライトコア、現像剤用コーティングキャリア、二成分現像剤及びそれらを用いた画像形成方法の提供。

【解決手段】 金属化合物と接着樹脂からなる原料を用い、粉碎、造粒、焼成工程を経てフェライト化させた二成分現像剤のコーティングキャリア用フェライトコアにおいて、焼結後のコアの粉末X線回折スペクトルの θ (°) $\geq 2\theta$ (°) ≥ 95 (°) の範囲に、前記の原料となる金属化合物の主ピークが存在し、焼結後のコアのX線回折スペクトルデータ中最も高いピーク強度の値の(counts)と、このデータ中の、原料となる金属化合物の主ピーク位置の強度値(counts)が、下式の範囲であることを特徴とするコーティングキャリア用フェライトコア。

$$100\% \geq \frac{\text{ピーク強度}}{\text{基準強度}} \geq 1$$

$$0.0 \geq \frac{\text{ピーク強度}}{\text{基準強度}} \geq 1$$



【特許請求の範囲】

【請求項1】 金属化合物と接着樹脂からなる原料を用い、粉砕、造粒、焼成工程を経てフェライト化させた二成分現像剤のコーティングキャリア用フェライトコアにおいて、焼結後のコアの粉末X線回折スペクトルの5(°) ≥ 2θ(°) ≥ 95(°)の範囲に、前記の原料となる金属化合物の主ピークが存在し、焼結後のコアのX線回折スペクトルデータ中最も高いピーク強度の値の(counts)と、このデータ中の、原料となる金属化合物の主ピーク位置の強度値(counts)が、下式の範囲であることを特徴とするコーティングキャリア用フェライトコア。

$$100\% \geq \text{②} / \text{①} \times 100 \geq 0, 1\%$$

【請求項2】 請求項1記載のコーティングキャリア用フェライトコアに樹脂コーティングしたことを特徴とする二成分現像剤用コーティングキャリア。

【請求項3】 請求項2記載の二成分現像剤用コーティングキャリアと、少なくとも樹脂と着色剤を含有するトナーによることを特徴とする二成分現像剤。

【請求項4】 静電潜像を請求項3記載の二成分現像剤を用いて現像することを特徴とする画像形成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、電子写真法、静電記録法、静電印刷法等における静電潜像の現像に用いられる二成分現像剤用キャリアコア、コーティングキャリア、現像剤及び画像形成方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、静電潜像の現像方式としては着色粒子であるトナーとキャリアとから構成されるいわゆる二成分現像剤を用い、磁気ブラシを形成させてこれにより静電潜像の現像を行う、二成分現像方式が知られている。

【0003】 この様な二成分現像方式に使用されるキャリアとしては、一般に鉄粉やフェライトからなるコアの表面に樹脂被覆層を形成してなる樹脂被覆キャリア(樹脂コーティングキャリア)がよく用いられている。

【0004】 この被覆樹脂は好適な帯電性を発揮することができるとともにトナーの一部がキャリア粒子の表面に融着する、いわゆるトナースペント現象による画像劣化の程度を比較的有効に防止し、結果として高い耐久性能を発揮するという特徴がある。

【0005】 しかしながら樹脂被覆キャリアは電荷保持機能が高いため、現像スリーブ(現像剤担持体)上において、現像後にキャリアに残存する現像されたトナーのカウンターチャージが、直ちに現像スリーブに逃げない傾向がある。その場合カウンターチャージとスリーブとの鏡像力によりキャリアがスリーブから離れていくくなる現象が発生する。

【0006】 そのためスリーブ上の現像剤の交換が不十

分で、同一の現像剤が再び現像領域に搬送されるため、現像領域の実質的なトナー濃度は一枚の画像を出力する間にも低下し、これがいわゆる「先後端濃度差」と呼ばれる画像問題となる。

【0007】 この画像問題は特にカラー画像形成方法で用いられる非接触現像法等の現像力のやや小さい現像系で顕著になる。

【0008】 この問題に対しては特開昭58-200245号、同57-40267号、同58-108549号、同55-163544号、同59-223452号、同54-7343号等に示されるようにキャリアの表面被覆層(コーティング層)中に導電性の材料を添加する手段が考えられている。

【0009】 しかしながら、表面被覆層中の添加だけでは導電性材料を高濃度に添加せねばならず結果的にキャリアの基本性能である帯電性能を悪化させる。

【0010】 また、実機中の長期使用等によりキャリア被覆層の摩耗が生じるとその効果は低減する。

【0011】 一方、近年における画像形成装置の小型化に伴う現像器の小型化に対応して、現像剤は、トナーが現像器に補給されてから現像スリーブ上で現像領域に達するまでの時間が極めて短くなっている。従って、短時間のうちに充分な帯電状態とされ得る帯電立ち上がりの早いものが必要となってきた。

【0012】 従来においてはトナーの帯電立ち上がり特性を向上させるために、通常トナー側に例えれば負帯電性の荷電制御剤を含有させることが行われている。しかし、上記のごとく小型の現像器に用いる場合には性能面で十分とはいえないかった。特にフルカラーの画像形成装置で用いられるカラートナーについては、有色の荷電制御剤を用いることができないため、選択技が狭まり、所望の帯電量を得ることができないというのが現状がある。

【0013】 また、他の手段としてキャリア側の被覆樹脂の改良や被覆樹脂中に例えれば正帯電性の荷電制御剤を含有させることも行われている。

【0014】しかし、その様な帯電能の付与を被覆層だけに与えた場合、上記した被覆層の摩耗、もしくは被覆層へのトナースペント等、による被覆層の劣化に伴い現像剤としての特性劣化が著しく、帯電能の低下による飛散・カブリが発生する。

【0015】 以上のとく、キャリアの低抵抗化、帯電性能付与と言った機能をキャリア表面だけに持たせる、実機中のキャリアの表面劣化による影響を受け易くなる問題点があった。

【0016】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上記問題点を解決する為にされた。

【0017】 すなわち、長期にわたって良好な画像を安定して得ることのできる静電潜像現像用のコーティング

キャリア用フェライトコア、現像剤用コーティングキャリア、二成分現像剤及び画像形成方法の提供にある。

【0018】より具体的にはキャリアのカウンターチャージリーク特性が良好で先後端濃度差が長期に渡って発生しない、帶電立ち上がりが良好でカブリやトナー飛散が発生しないキャリア用フェライトコア、現像剤用コーティングキャリア、二成分現像剤、及びそれらを用いた画像形成方法の提供にある。

【0019】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、上記の目的に對してはキャリアの被覆層中だけに機能を付与させる添加剤を加えるのではなく、キャリアコア内部に目的とする機能を付与させた材料を存在させることにより達成できることを見いだし本発明に至った。

【0020】本発明の目的は、下記構成の何れかを探ることによって達成される。

【0021】(1) 金属化合物と結着樹脂からなる原料を用い、粉碎、造粒、焼成工程を経てフェライト化させた二成分現像剤のコーティングキャリア用フェライトコアにおいて、焼結後のコアの粉末X線回折スペクトルの θ (°) $\geq 2\theta$ (°) ≥ 95 (°) の範囲に、前記の原料となる金属化合物の主ピークが存在し、焼結後のコアのX線回折スペクトルデータ中最も高いピーク強度の値 Θ (counts) と、このデータ中の、原料となる金属化合物の主ピーク位置の強度値 Θ (counts) が、下式の範囲であることを特徴とするコーティングキャリア用フェライトコア。

【0022】 $100\% \geq \Theta / \Theta \times 100 \geq 0, 1\%$

(2) (1) 記載のコーティングキャリア用フェライトコアに樹脂コーティングしたことを特徴とする二成分現像剤用コーティングキャリア。

【0023】(3) (2) 記載の二成分現像剤用コーティングキャリアと、少なくとも樹脂と着色剤を含有するトナーより異なることを特徴とする二成分現像剤。

【0024】(4) 静電潜像を(3)記載の二成分現像剤用いて現像することを特徴とする画像形成方法。

【0025】尚、上記のピーク強度の値は、後述するごとくいずれも各のバックグラウンド強度を差し引いた実質的なピーク強度である。

【0026】コアの内部に意図的に原料を存在させ、キャリアに原料特有の物性の機能を持たせることをねらっており、これによりコーティング層だけに機能を持たせるよりも、キャリアとしての物性制御の幅が広がり、コーティング層の変化しやすい実機内でも安定した機能を得ることができる。

【0027】特に、先後端濃度差問題についてはコア内部に例えばフェライト化していないCu化合物を存在させることにより、低抵抗化を行うことによって長期にわたって低減できる。

【0028】また、帶電立ち上がり特性の向上について

はコア内部に例えばフェライト化していないMg化合物を存在させることにより、高帶電能化を達成でき、帶電立ち上がり特性が良好で飛散・カブリのない良好な画像を長期にわたって得ることができる。

【0029】以下、本発明の具体的な内容につき説明する。

【0030】コアの製造

コアの製造については、原料に対し例えば以下の工程を踏むことで作製できる。

【0031】

スラリー作製工程

↓原料の粉碎及びスラリー化

造粒工程

↓スラリーの造粒

焼成工程

↓フェライト化

解碎・分級工程

↓形状、粒度分布の制御

選別工程

↓磁気特性の制御

製品(コア)

本特許の達成手段である「コア中に機能性の材料を存在させる」ためには、種々の方法がある。しかし、結果として本願発明の請求項に示したコアが作製可能ならばよく、作製手段は本願明細書で擧げるものが限定されない。

【0032】たとえば、本発明達成手段として

①フェライト化しない機能性材料を選択し原料として添加する方法

②フェライト化する機能性材料を製造法の制御によりフェライト化させず原料のまま残す方法がある。

【0033】ここでは上記②の作製法を示す。

【0034】②の作製方法についての一つの方法は、「造粒工程」で作られるスラリーの乾燥粒子中の原料粒径を小さくし、結着樹脂との接触面積を広げることである。それにより、焼結の際、結着樹脂の存在が原料金属化合物同士の焼結を阻害するため、原料のまま残すことが可能である。

【0035】具体的には「スラリー作製工程」において原料の粉碎粒径を数平均粒径で0.001~1μmに制御することと、適正な性能の結着樹脂を選択する事である。

【0036】粉碎粒径は0.001μm末端では単位体積当たりの表面積が過大となり、結着樹脂との接触面積が過大となるため、フェライト化ができなくなり、強度、磁気特性に大きな影響を与えててしまう。また1μmを越えると容易にフェライト化してしまう。

【0037】原料粒径は、例えばスラリー作製工程で混合法ポールミルを用いる場合、粉碎メディアの物性、混合時間、添加量制御、原料濃度制御により調整できる。

【0038】また、接着樹脂の性質の制御は種類、添加量によって制御でき、場合によっては界面活性剤を用いて調整しても良い。

【0039】本願発明については上記の様な制御をコアの原料全てに行ってスプレードライ前の原料としても良いし、この制御を行ったコア原料と通常のコア原料とを混合しそれをスプレードライ前の原料としても良い。

【0040】また、②に関するもう一つの方法は、焼結のために加える熱エネルギー量を完全焼結にかかる量よりも少なくすることである。フェライトの構成原料により適正な焼結温度は変化するが、500～1200℃の炉で2～50時間焼結させることで作製することができる。

【0041】数平均粒径の測定は、透過型電子顕微鏡J EM-2000FX（日本電子社製）で観察した後、画像解析装置SP-ICA（日本アビオニクス社製）により求めた。

【0042】コア原料

コア原料としては、従来から用いられる金属、及び金属化合物が使用できるが、キャリアの物性として得たいた物性をもつものを作成しなければならない。

【0043】これらの原料としては、Fe化合物、Ni化合物、Bi化合物、Li化合物等の原料のほか、特に帶電特性を制御するためにはMg化合物、Zn化合物、Mn化合物が挙げられる。その中でも、特に抵抗値を制御させるためにはCu化合物、Zn化合物が挙げられる。

【0044】これらの化合物の具体例としては、例えば、Fe、FeO、Fe₂O₃、Fe₃O₄、NiO、Bi₂O₃、Li₂O、MgO、Mg(OH)₂、MgCO₃、ZnO、Zn₂O、Cu、CuO、MnO₂、Mn₂O₃、MnCO₃、CoO、BaCO₃、SrCO₃、Y₂O₃、CaO、CaCO₃、Al₂O₃、V₂O₅、In₂O₃、Ta₂O₅、ZrO₂、B₂O₃、MoO₃、Na₂O、SnO₂、TiO₂、Cr₂O₃等が挙げられる。

【0045】また形状制御をさせるためにリン酸塩化合物を0.01～5.0wt%添加してもよい。リン酸塩としては、例えばリン酸カルシウム、リン酸マンガン、リン酸亜鉛、リン酸マグネシウム、又はリン酸二水塩等を用いることができる。

【0046】接着樹脂としては特に限定されないが、コアの製造の容易性からPVA（ポリビニルアルコール）系ポリマー、酢酸ビニル系ポリマー等の水溶性高分子材料を好ましく用いることができる。

【0047】焼成後のコア

焼成後のコアに原材料の金属もしくは金属化合物が存在しているかどうかの確認はX線回折装置（粉末法）により以下の手段で行う。

【0048】原料単体のX線回折スペクトルデータを5(°) ≥ 2θ (°) ≥ 95 (°) の範囲でそれぞれと

る。

【0049】各原料データの主ピークの存在する2θ°を読みとり①(°)とする。

【0050】ここで言う「主ピーク」とは最も強度の強いものから5本目までに含まれるピークのことである。

【0051】焼結後のフェライトコアのX線回折スペクトルデータをとる。

【0052】A. このフェライトコアのX線回折スペクトルデータの中で最も強度の強いピークの強度から、バックグラウンドの強度を差し引いた値を算出しの(counts)とする。

【0053】B. このフェライトコアX線回折スペクトルデータの中で、上記①の2θ°のそれぞれの位置の強度からバックグラウンドの強度を差し引いた値を算出し②(counts)とする。

【0054】ここで言う「バックグラウンドの強度」とは、ピークを挟む2つの強度の極小値の平均値である。

【0055】以上のような手法から得られた数値を基に、本願発明では、少なくとも一つの原料成分の③が、100% ≥ ② / ① × 100 ≥ 0.1%を満足しなければならない。

【0056】この式での強度比が100%より大きい場合、原料成分が過多となり、フェライト粒子としての性能を保てなくなる。また、0.1%未満では本特許の効果が得られない。

【0057】X線回折装置としてはJDX-8200型回転対陰極X線回折装置（日本電子（株）製）を用いた。

【0058】被測定サンプルは、試料100重量部とグリス（協同油化社製）30重量部を充分混合したものを30gをガラス製サンプルホールダーに2mmの層厚で調整することにより作成した。

【0059】X線の条件は管球Cu、電圧40kV、電流100mAであり、焼結コア、原料の測定とも同一条件で測定した。

【0060】キャリアの製造法

本発明においてコア粒子の表面にコーティング樹脂層を形成する方法は特に限定されるものではなく、一般的な浸漬塗布法、スプレー塗布法、流動化ベッド塗布法、などを利用してもよいが、特に、被覆樹脂層の材料として樹脂微粒子を用い、機械的な衝撃力によってコア粒子表面に付着させて成膜する乾式機械的衝撃法によるものが好ましい。

【0061】この乾式機械的衝撃法によれば、コーティング中、被覆樹脂層へコアの原料成分が均一に分散し目的とする効果をより顯著に得ることができる。

【0062】そのほか、被覆樹脂層のコア粒子に対する接着力が強く、耐久性に優れたキャリアを得ることができること。

50 【0063】被覆樹脂

被覆する樹脂としては、スチレン系樹脂、アクリル系樹脂、スチレン-アクリル系樹脂、ビニル系樹脂、エチレン系樹脂、ロジン変成樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリエスチル系樹脂、シリコーン系樹脂、メラミン系樹脂、その他を用いることができる。これらは組み合わせて使用しても良い。

【0064】コーティング膜厚は、0.1~5μm程度の膜厚が好ましい。0.1μm未満では極薄となるためコア粒子表面の一部が露出した状態となり安定した帶電量を得ることができず、また5μmを越えると膜厚が過大となってコアに対する接着力が弱くなり被覆樹脂層が剥離する現象が生じ易くなる。

【0065】トナー

従来から公知のトナーを用いることができるが、結着樹脂と着色剤を含有した着色粒子に、外添剤として無機微粉末を添加混合したもののが好ましい。平均粒径は体積平均粒径で通常、1~30μm、好ましくは5~20μmである。

【0066】着色粒子（トナー）を構成する結着樹脂としては特に限定されず、従来公知の種々の樹脂が用いられる。例えば、スチレン系樹脂、アクリル系樹脂、スチレン/アクリル系樹脂、ポリエスチル樹脂等が挙げられる。着色粒子（トナー）を構成する着色剤としては特に限定されず、従来公知の種々の材料が使用される。

【0067】例えば着色剤としてはカーボンブラック、磁性体、染料、顔料等が使用でき、カーボンブラックとしてはチャネルブラック、ファーネスブラック、アセチレンブラック、サマルブラック、ランプブラック等が使用される。

【0068】染料としてはC. I. ソルベントレッド1、同49、同52、同58、同63、同111、同22、C. I. ソルベントイエロー19、同44、同77、同79、同81、同82、同93、同98、同100、同104、同112、同162、C. I. ソルベントブルー25、同36、同60、同70、同93、同95等を用いる事ができ、またこれらの混合物も用いる事ができる。顔料としてはC. I. ピグメントレッド5、同48:1、同53:1、同57:1、同122、同139、同144、同149、同166、同177、同178、同222、C. I. ピグメントオレンジ31、同43、C. I. ピグメントイエロー14、同17、同93、同94、同138、C. I. ピグメントグリーン7、C. I. ピグメントブルー15:3、同60等を用いる事ができ、これらの混合物も用いる事ができる。数平均一次粒子径は種類により多様であるが、概ね10~200nm程度が好ましい。

【0069】また必要に応じて離型剤を添加することもできる。

【0070】離型剤としては数平均分子量（該数平均分子量は高温GPCでのポリスチレン分子量換算値を示す）が1500~5000の低分子量ポリエチレン、低分子量ポリプロピレン、低分子量ポリエチレン-ポリプロピレン共重合体等のポリオレフィンワックス、またはマイクロワックス、フィッシャートロブッシュワックス等の高融点パラフィンワックス、または脂肪酸低級アルコールエステル、脂肪酸高級アルコールエステル、脂肪酸多価アルコールエステル等のエステル系ワックス、アミド系ワックス等を単独または併用して用いることができる。

【0071】その他の添加剤としては例えばサリチル酸誘導体、アソ系金属錯体等の荷電制御剤等が挙げられる。

【0072】また、外添剤としての無機微粒子としてはシリカ、酸化チタン、酸化アルミニウム、チタン酸バリウム、チタン酸ストロンチウム等の数平均一次粒子径が5~1000nmのものが使用され、これらは疎水化されていてもよい。さらに、トナーにはクリーニング助剤として数平均一次粒子径が0.1~2.0μmのステンレス-アクリル樹脂微粒子やステアリン酸垂鉛の様な高級脂肪酸金属塩を添加してもよい。

【0073】無機微粒子の添加量としては着色粒子に対して0.1~10.0wt%添加するとよい。また、クリーニング助剤は着色粒子に対して0.01~5.0wt%程度がよい。

【0074】現像方法

上記のトナーとキャリアとにより構成される二成分現像剤で現像される静電潜像はいずれの媒体に形成されたものであっても良い。通常、静電潜像の形成には、セレン感光体、アモルファスシリコン感光体、有機半導体感光体等が広く用いられている。

【0075】また現像方法については通常用いられる、接触現像法、非接触現像法どちらでも使用することができます。

【0076】特に本願発明の現像剤は、先後端濃度差問題の発生し易い非接触現像系に対して特に良好な結果を示す。また、特に基本色を重ね合わせ、2次色を表現するカラーの重ね合わせ画像形成方法で色味の変化が少なくて色彩の安定性が優れる。

【0077】接触方式の現像としては、本発明のトナーを有する現像剤の層厚は現像領域に於いて0.1~8μm、特に、0.4~5μmであることが好ましい。また、感光体と現像剤担持体との間隔は、0.15~7μm、特に、0.2~4μmであることが好ましい。

【0078】また、非接触系現像方式としては、現像剤担持体上に形成された現像剤層と感光体とが接触しないものであり、この現像方式を構成するために現像剤層は薄層で形成されることが好ましい。この方法は現像剤担持体表面の現像領域で20~500μmの現像剤層を形成させ、感光体と現像剤担持体との間隔が該現像剤層よりも大きい間隔を有するものである。

〔0079〕この複層形成は磁気の力を使用する磁性ブレードや現像器担持体表面に現像剤層規制棒を押圧する方式等で形成される。さらに、ウレタンブレードや構成鋼板等を現像器担持体表面に接触させ現像剤層を規制する方法もある。押圧規制部材の押圧力としては1~15g f/mmが好適である。押圧力が小さい場合には規制力が不足するため搬送が不安定になりやすく、一方、押圧力が大きい場合には現像剤に対するストレスが大きくなるため、現像剤の耐久性が低下しやすい。好ましい範囲は3~10 g f/mmである。

〔0080〕現像器担持体と感光体表面の間隙は現像剤層よりも大きいことが必要である。さらに、現像に際し現像バイアスを付加する場合、直流成分のみ付与する方式でも良いし、交流バイアスを印加する方式のいずれでも良い。

〔0081〕現像器担持体の大きさとしては直径が10~40 mmのものが好適である。直径が小さい場合には現像剤の混合が不足し、トナーに対して充分な帶電付与を行うに充分な混合を確保することが困難となり、直径が大きい場合には現像剤に対する移着力が大きくなり、トナーの飛散の問題を発生しやすい。

〔0082〕以下、非接触現像方式の一例を図1を用いて説明する。

〔0083〕図1は、本発明の画像形成方法に好適に使用できる非接触現像方式の現像部の概略図であり、1は感光体、2は現像器担持体、3は本発明のトナーを含有する二成分現像剤、4は現像剤層規制部材、5は現像領域、6は現像剤層、7は交番電界を形成するための電源である。

〔0084〕本発明のトナーを含有する二成分現像剤はその内部に磁石2Bを有する現像器担持体2上に磁気力により担持され、現像スリーブ2Aの運動により現像領域5に搬送される。この搬送に際して、現像剤層6は現像剤層規制部材4により、現像領域5において、感光体1と接触することがないようにその厚さの層に規制される。

〔0085〕現像領域5の最小間隙(Ds d)はその領域に搬送される現像剤層6の厚さ(好ましくは2~500 μm)により大きく、例えば100~1000 μm程度である。交番電界を形成するための電源7は、周波数1~10 kHz、電圧1~3 kV p-pの交流が好ましい。電源7には必要に応じて直流を交流に直列に加えた構成であってもよい。直流電圧を付加する場合は300~800 Vが好ましい。

〔0086〕本発明のトナーをカラー画像形成方式へ適用する場合、感光体上へ単色の画像を形成しつつ逐次画像支持体へ転写する方式(これを逐次転写方式とし、図2に示す。)、或いは感光体上に複数回単色画像を現像しカラー画像を形成した後に一括して画像支持体へ転写する方式(これを一括転写方式とし、図3に示す。)等

の方式があげられる。

〔0087〕図2、3における画像形成方式について以下に詳述する。

〔0088〕本発明に於いて使用される現像器担持体としては、図1、2、3に示すごとく、担持体内部に磁石2Bを内蔵した現像器が用いられ、現像器担持体表面を構成するスリーブ2Aとしてはアルミニウムや表面を酸化処理したアルミニウム或いはステンレス製のものが用いられる。

10 〔0089〕以下、図2に示した逐次転写方式の一例について説明する。

〔0090〕1 1は帶電電極である帶電器、1 2はイエロー、マゼンタ、シアン、黒のトナーを各々に装填する現像器からなる現像ユニットで、4色のトナーに対応する4つの器に分かれている。これら現像器の基本構成は、図1に示した現像部の概略図と同じである。1 4は感光体ドラム、1 3はクリーニングユニット、1 5は感光体ドラム上に形成された単色カラートナー像を一時的に保持し、更にその上に次の単色トナー像を保持し、最終的に所望の多色カラーライントー像を形成する転写ドラム、1 6は転写ドラム上のトナー像が転写される転写材を搬送する搬送ユニット、1 7は転写ドラム1 5の内部に設けられ、内部からのコロナ放電し、転写材を該ドラムに静電吸着する吸着電極、1 8は感光体ドラム1 4上に形成されたトナー像を逐次転写ドラムに転写させる転写電極、1 9は転写ドラム1 5上に静電吸着した転写材を剥離するための剥離電極、2 0は転写材剥離後、転写ドラムに残留する電荷を除去する除去電極である。

〔0091〕感光体ドラム1 4上に帶電電極1 1により、一様に電荷を形成し、その後、像様露光(手段示せ)し、静電潜像を形成する。この静電潜像は、現像ユニット1 2の一色のトナー(例えは黒トナー)を保有する現像器により現像され、一色のトナー像が感光体ドラム1 4上に形成される。一方搬送ユニット1 6により転写ドラム1 5上に搬送された転写材は吸着電極1 7により転写ドラム上に静電吸着され、転写部に搬送される。

〔0092〕この搬送された転写材へは、転写部において、感光体ドラム1 4上に形成されている上記トナー像を転写する。この転写像を転写後の感光体ドラム1 4上には、トナーが残留しており、この残留トナーはクリーニングユニット1 3によりクリーニングされ、次のプロセスに使用される。多色画像を形成する場合、同様なプロセスに従い他の色のトナー像が現像により形成され、逐次転写ドラム1 5に転写される。最終的には、所望のトナー像が転写ドラム1 5上に吸着されている転写材上に形成される。所望のトナー画像を形成した転写材は、剥離電極1 9により剥離され、定着部へ搬送され、最終の固定された多色トナー像が得られる。一方、転写ドラム1 5は残留している電荷を除去電極2 0

11

により除去され、次のプロセスに使用される。

【0093】次に図3を使用し、一括転写方式について説明する。

【0094】装置の各部は図2の例と同じであるので省略する。但し、21は搬送された転写材を搬送しながら、トナー像を転写する搬送部である。感光体ドラム14上に帯電電極により一様に電荷を形成し、その後潜像形成手段（手段図示せず）により静電潜像を形成する。この静電潜像は、現像ユニット12の一色のトナー（例えば黒トナー）を保有する現像器により現像され、一色のトナー画像が感光体ドラム上に形成される。本図示例においては、このトナー像は転写されることなく、そのままトナー画像を有している感光体ドラム上に再度、帯電電極11により一様に電荷を形成し、更に静電潜像を形成し、上記とは異なる色のトナーを有する現像器により現像され、他の色のトナー像が先のトナー像上に重ね合わせて形成される。この間クリーニングユニット13、転写電極18、搬送部21は作動せず、かつ感光体ドラム14上のトナー像を乱すことがない様に感光体ドラム14から退避させられている。

【0095】所望の画像形成が終了し、多色トナー画像が形成された後、感光体ドラム上のトナー画像は、搬送ユニット16により搬送された転写材に、搬送部21により搬送されながら、転写電極18によりトナー画像は転写される。転写されたトナー画像を拘束して転写材は定着部へ搬送され、固定化され、転写材上に最終多色トナー画像が形成される。トナー像を転写した後の感光体ドラム14にはトナーが残留するのでクリーニングユニット13によりクリーニングされ、次のプロセスに使用される。

【0096】上述した各種方式で感光体上に形成されたトナー像は、転写工程により紙等の転写材に転写される。転写方式としては特に限定されず、いわゆるコロナ転写方式やローラー転写方式等種々の方式を採用することができる。

【0097】本発明のトナーは転写効率が高く、かつ感光体上に残するトナーが少ないので例えばブレードクリーニング方式に用いた場合ブレードの感光体への押接力を軽減する等ができる、感光体の長寿命化にも寄与する*

* ことができる等の効果も有する。

【0098】トナー像を転写材に転写した後、感光体上に残留したトナーはクリーニングにより除去され、感光体は次のプロセスに繰り返し使用される。

【0099】本発明に於いてクリーニングする機構に関しては特に限定されず、ブレードクリーニング方式、磁気ブラシクリーニング方式、ファーブラシクリーニング方式などの公知のクリーニング機構を任意に使用することができる。これらクリーニング機構として、好適なもののは上述した理由から、いわゆるクリーニングブレードを用いたブレードクリーニング方式である。

【0100】

【実施例】以下、実施例を挙げて本発明を詳細に説明するが、本発明の態様はこれに限定されない。

【0101】コアの作製

表1に示した所定の原料を所定のモル比で調合したフェライト原料成分1700重量部に対し、結着樹脂としてポリビニルアルコール16重量部及び分散媒として水2400重量部とともに湿式ボールミル（メディア粒径1.0mm、鉄球）により180分間、粉碎、混合し、スラリー状混合物を得た。この混合物中のフェライト原料成分の平均粒径は表1の様になった。

【0102】この混合浴液を造粒機を用いて造粒した後、非酸化性の雰囲気下で最高到達温度1070℃に設定した焼成炉内に30時間さらし、焼成を行った。得られた焼結体を解碎、分級、磁選することにより体積平均粒径約5.0μmのコアを得た。

【0103】表1にはX線回折データとして焼結コアの主ピークに対する原料のピーク強度比①/②×100%を示す。

【0104】比較コア1の作製

上記の作製条件のうち、湿式ボールミルの処理時間を48時間とし、あとは同様な手段で作製した。

【0105】比較コア2の作製

上記の作製条件のうち、湿式ボールミルの処理時間を15分とし、あとは同様な手段で作製した。

【0106】

【表1】

コアNo.	原料の組成	組成比 mol%	1シリ-中の 原料粒径	コアX線回折評価 強度比①/②×100
コア1	Fe ₂ O ₃ /CuO	55/45	0.052	49.8
コア2	Fe ₂ O ₃ /CuO/ZnO	40/35/25	0.063	44.9
コア3	Fe ₂ O ₃ /MgO	60/40	0.11	10.8
コア4	Fe ₂ O ₃ /Mg(OH) ₂	55/45	0.52	5.4
コア5	Fe ₂ O ₃ /MnO/Mg(OH) ₂	55/10/35	0.89	30.2
コア6	Fe ₂ O ₃ /CuO/MgO	25/30/45	0.97	8.1
コア7	Fe ₂ O ₃ /CuO/Mg(OH) ₂ /P	25/30/44/1	0.92	32.5
比較コア1	Fe ₂ O ₃ /CuO/Mg(OH) ₂ /P	25/30/44/1	0.0005	152.8
比較コア2	Fe ₂ O ₃ /CuO/Mg(OH) ₂ /P	25/30/44/1	5	0

【0107】キャリアの作製

各コアを用いスプレーコート法と乾式機械的衝撃法(以下乾式コート法)によりキャリアを作製した。

【0108】スプレーコート法は、コア粒子9.8重量部をスプレーコート装置に投入し、St/MMA共重合体(共重合モル比St/MMA=4/6)、2重量部をアセトン1.00重量部に溶解したコーティング液とし、樹脂コーティングキャリアを得た。なお、Stはステレンモノマーを、またMMAはメタクリル酸メチルモノマーを表す。

【0109】乾式コート法は、コア粒子9.8重量部とSt/MMA共重合体粒子(共重合モル比St/MMA=4/6、一次平均粒径8.0nm、Tg=103°C)2重量部を高速攪拌混合機に投入し30°Cで20分間混合した後、110°Cに加熱し40分間攪拌してその後冷却し、樹脂コーティングキャリアを得た。

【0110】トナーの作製

ポリエチル樹脂(100部)、マゼンタ顔料:C. I. P. R. 122(5部)、低分子量ポリプロピレン(3部)を混合、混練、粉碎、分级を行い体積平均粒径1.1μmの着色粒子を得た。これにシリカ微粒子を0.1wt%添加してトナーを得た。

【0111】現像剤の調製

上記のトナーとキャリアを用い、トナー3.5gとキャリア4.65gとをV型混合機を用い20分間混合し現像剤を作製した。

【0112】評価

実施例としての評価では、印字率5.0%の原稿を用い実写ランニングテスト各色5万枚を行った。

【0113】画像形成装置としては、ニコニカ社製KON*30

実験 No.	使用キャリア No.	コート法	使用コア No.	先後端濃度差		トナー飛散	
				スタート	5万枚出力	スタート	5万枚出力
1	キャリア1	乾式コート	コア1	0.00	0.01	A	B
2	キャリア2	乾式コート	コア2	0.00	0.00	A	B
3	キャリア3	乾式コート	コア3	0.01	0.02	A	A
4	キャリア4	乾式コート	コア4	0.01	0.02	A	A
5	キャリア5	乾式コート	コア5	0.00	0.02	A	A
6	キャリア6	乾式コート	コア6	0.00	0.01	A	B
7	キャリア7	乾式コート	コア7	0.00	0.01	A	A
8	キャリア8	スプレーコート	コア8	0.01	0.01	A	B
9	キャリア9	スプレーコート	コア9	0.00	0.00	A	A
10	比較キャリア1	乾式コート	比較コア1	0.28	0.34	D	D
11	比較キャリア2	乾式コート	比較コア2	0.32	0.57	C	C

【0118】表2から明らかなるとく、キャリア1~9は先行端濃度差、トナー飛散の特性とも良好であるが、比較キャリア1、2は両特性とも問題があることがわかる。

【0119】

【発明の効果】本発明により、長期にわたって良好な画像を安定して得ることのできる静電潜像現像用のコート

* i c a 7 7 2 8 機を用いて行った。条件は下記に示す条件である。感光体としては積層型有機感光体を使用した。

【0114】感光体表面電位=-850V

感光体露光時の電位=-50V

DCバイアス=-750V

ACバイアス=Vp-p: 1.7kV

交番電界周波数=8kHz

Dsd=500μm

10 押圧規制力=10gf/mm

押圧規制棒=SUS416(磁性ステンレス製)／

直径3mm

現像剤層厚=1.50μm

現像スリーブ=2.0mm

先行端濃度差の評価はベタ黒を複写し排紙先端部と後端部の濃度をマクベス社製RD918型濃度測定機で測定し、(先端部の値)-(後端部の値)の値を評価値とした。従って、値が0に近いほど良好といえる。

【0115】トナー飛散の評価は目視による飛散の確認を行い、以下の4ランクに分類した。

【0116】

A: 飛散が全く見られない

B: 現像器のスリーブ付近の上蓋にわずかに飛散が見られる

C: 現像器の上蓋全面に飛散が見られる

D: 機内のほとんどに飛散が見られる

結果は表2に示す。

【0117】

【表2】

【0118】表2から明らかなるとく、キャリア1~9は先行端濃度差、トナー飛散の特性とも良好であるが、比較キャリア1、2は両特性とも問題があることがわかる。

【0119】より具体的にはキャリアのカウンターチャージリーキ特性が良好で、先後端濃度差が長期に渡って発生しない、また帶電立ち上がりが良好でカブリやトナ50 一飛散が発生しないキャリア用フェライトコア、現像剤

15

用コーティングキャリア、二成分現像剤、及びそれらを用いた画像形成方法の提供にある。

【図面の簡単な説明】

【図1】非接触現像方式の一例を示す概略図。

【図2】逐次転写方式の一例を示す概略図。

【図3】一括転写方式の一例を示す概略図。

【符号の説明】

1 感光体

2 現像剤担持体

2A 現像スリーブ

2B 磁石

3 二成分現像剤（本発明のトナー含有）

4 現像剤層規制部材

5 現像領域

* 6 現像剤層

7 交番電界を形成するための電源

11 帯電器

12 現像ユニット

13 クリーニングユニット

14 感光体ドラム

15 転写ドラム

16 撤送ユニット

17 吸着電極

10 18 転写電極

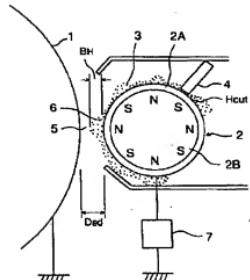
19 剥離電極

20 除去電極

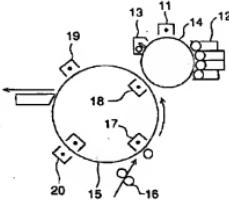
21 撤送部

*

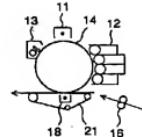
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの焼き

(72)発明者 河野 誠式

東京都八王子市石川町2970番地コニカ株式

会社内